

大津企業景況調査報告書

(第69回)

平成27年 4月～ 6月期 実績

平成27年 7月～ 9月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成27年4月～6月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	16社	80.0%
製 造 業	10社	9社	90.0%
卸 売 業	10社	7社	70.0%
小 売 業	30社	25社	83.3%
サービス業	30社	27社	90.0%
合 計	100社	84社	84.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成27年4月～6月とし、調査時点は平成27年6月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は引き続き足踏み状態

平成 27 年 4 月～6 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は引き続き足踏み状態である。全体の業況判断 DI（前年同期比）は▲17 と前四半期から横ばいであった。業種別では、製造業とサービス業が前四半期より改善したが、前年比マイナスであり、建設業、卸売業、小売業は悪化した。これは株価の上昇、原油価格下落等の追い風があるものの、消費増税後の個人消費が十分回復していないことや円安による原材料高や電気料金値上げ等の影響で採算が回復していないためとみられる。

先行きは、業況判断 DI が▲8 と改善すると予想している。業種別では、公共工事が一般する建設業は悪化し、小売業は横ばいであるが、サービス業をはじめ製造業、卸売業は改善すると見込んでいる。これは海外経済の先行き懸念があるものの、株価上昇や原油安効果もあり個人消費が徐々に持ち直し、地方創生をはじめ各種中小企業支援政策が講じられていることから先行きにやや期待をしているものとみられる。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は横ばい。前年比マイナスが続く

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期から横ばいであった。業種別では、製造業とサービス業が前四半期より改善したが、前年比マイナスであり、建設業、卸売業、小売業は悪化した。これは株価の上昇、原油価格下落等の追い風があるものの、消費増税後の個人消費が十分回復していないことや円安による原材料高や電気料金値上げ等の影響で採算が回復していないためとみられる。

□ 売上 DI（前年同期比）はやや改善。卸売業、サービス業で改善

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前四半期の▲10 から今四半期は▲8 でやや改善した。業種別にみると、前四半期に大きく減少していた卸売業が大幅に改善し、サービス業も改善して前年比プラスに転じた。

□ 採算 DI（前年同期比）は、ほぼ変わらず。製造業、サービス業が改善

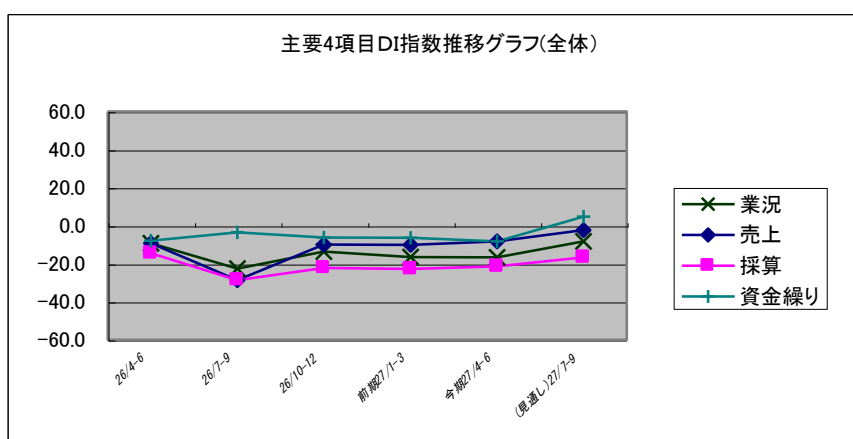
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期▲23 から今四半期▲21 とほぼ変わらず。業種別にみると、前四半期に大きく悪化していた製造業が改善し、サービス業も改善したが、建設業、小売業は悪化した。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）はほぼ変わらず。製造業、卸売業が悪化

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲6 から今四半期▲8 とほぼ変わらず。業種別にみると、製造業と卸売業が悪化し、他の業種はやや改善した。

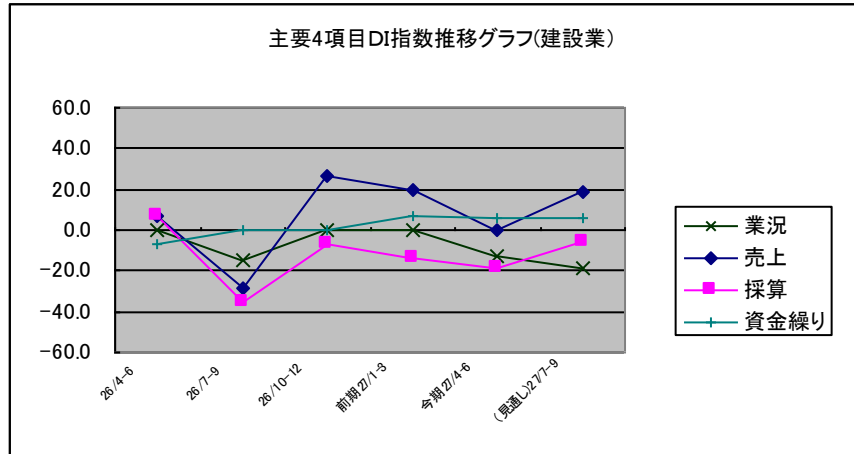
□ 従業員 DI（前年同期比）は人員不足がやや緩和。製造業が過剰に転じる

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+23 が今期+17 とやや緩和した。業種別にみると、製造業が▲22 と過剰に転じた。一方、卸売業は+14 でやや不足となった。



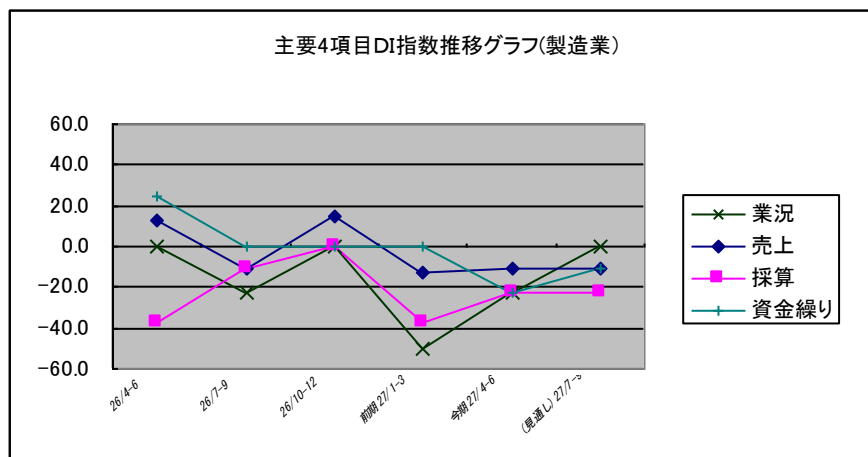
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0(前年同期水準)が今四半期は▲13 と悪化した。個別指標をみると「売上」が前四半期の+20 から今四半期±0 と前年比増加が止まり、「採算」が悪化し、取引の「問合せ」が大幅に減少している。「従業員」も人員不足が続いていることから上記の業況判断になったとみられる。



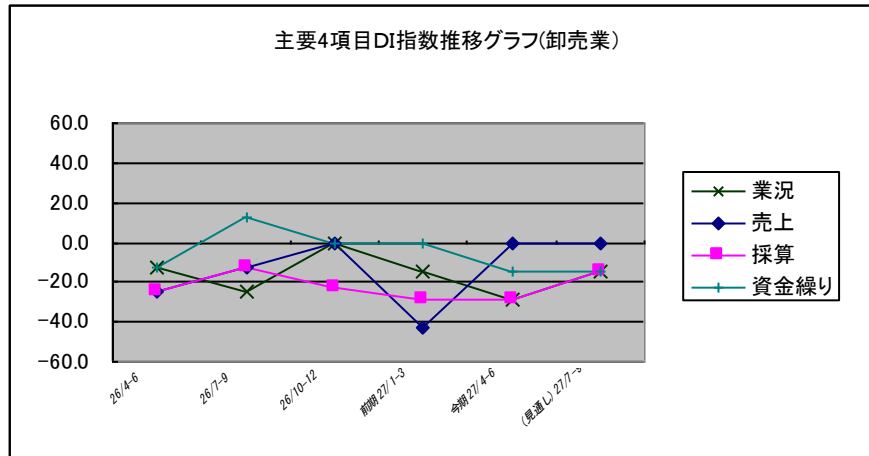
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲50 から今四半期は▲22 と改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲13 から今四半期▲11 と減少幅が縮小し、「採算」も前四半期の▲38 から今四半期▲22 と改善している。改善の足取りが重いのは円安や電気料金の値上げによるコスト負担が重いためとみられる。



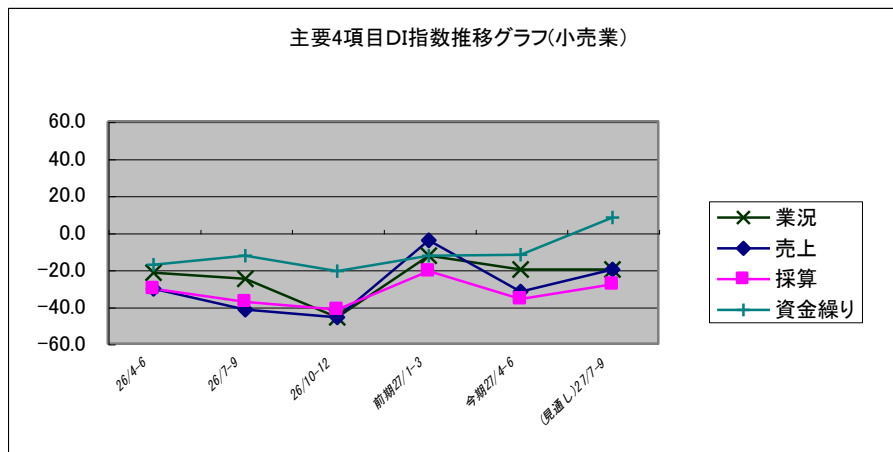
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲14 から今四半期は▲29 と悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲43 から今四半期は±0(前年同期並み)と改善したが「採算」は悪化が続いており、「資金繰り」が前四半期の±0(前年同期並み)から今四半期は▲14 と悪化している。



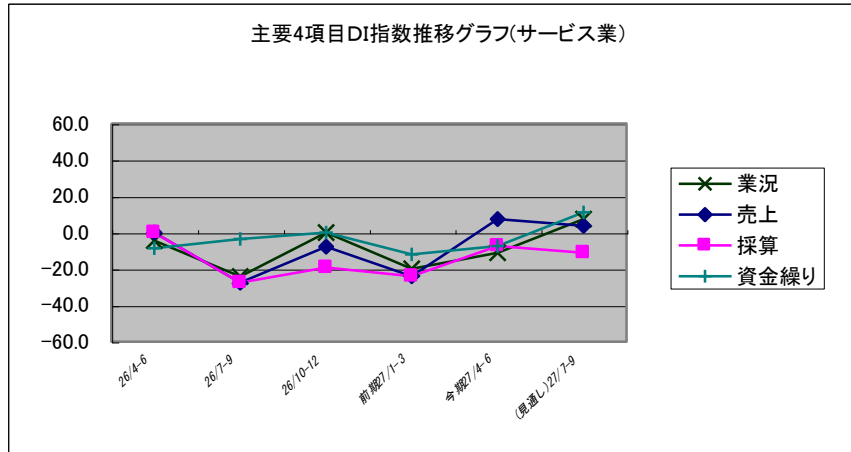
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲13 から今四半期は▲20 と悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲4 から今四半期は▲32 と減少し、「採算」も悪化した。「人員」は不足が続いている。株価の上昇、原油価格下落等の追い風があるものの、個人消費が消費増税からの持ち直しが弱い面やネット販売の影響を受けている面も考えられる。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲20 から今四半期は▲11 と改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲24 から今四半期は+7 と増加し、「採算」も改善した。「従業員」は人員の確保難が緩和している。宿泊・飲食サービス業では、訪日外国人(インバウンド)消費の効果も出ているとみられる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲16 から▲8 と改善する見込みとなっている。個別指標をみると、「売上」は減少幅が縮小し、「採算」の悪化幅が縮小して「採算水準」もプラス(黒字)に改善するとみている。業種別では、公共工事が一服する建設業がやや悪化すると見込み、小売業は横ばいを見込んでいるが、製造業はじめ他の業種は改善すると見込んでいる。特にサービス業はプラスに好転すると見込んでいる。

海外経済の先行き懸念があるものの、株価の上昇や原油安の追い風もあり個人消費が徐々に持ち直すと見込み、中小企業・小規模企業への地方創生等の各種支援策が講じられていることもあって、企業は先行きにやや期待をしているものとみられる。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は全体で前四半期から2ポイント増えて27%である。業種別にみると、製造業が最も高く44%、サービス業が30%、建設業25%、小売業24%である。投資企業の投資内容の割合は、「合理化・省力化投資」が50%で最も多く、「更新投資」は25%で、「生産力増加」も13%ある。

投資方針は、「計画通り」が50%あり、「景気により計画を見直す」の25%を大幅に上回っていることから、景気の先行き期待から、設備投資に積極性がみられるようになってきた。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- 株価上昇が回り回って好影響が出る事を期待するが、一向に上昇のきざし無し。円安により原料、石油が値下がりしてもメーカーは全く値下げせず、むしろ電気料金高騰を理由に値上げしてくる。原油高の折は必ず値上げした過去を考えると、大手メーカーの独禁法違反を問いたい。(製造業)
- 消費税のこれ以上の増税は反対です。少子高齢化社会、早くからわかっていた事、議員の定数やいろいろと減らせる所はあると思う。(小売業)
- 景気が良い悪いというマクロ的な評価は、個人消費に気分として影響するが、「買う」「買わない」の決定は、もっと現実的なもの。そういう所で「お客様が迷っている」印象があって、ネットやテレビに影響されやすくなっていると思う。以前に増して。(小売業)
- 消費税8%が弊社、ジャブのように効いてきました。決算3月、納税6月・・・・・・・・。(サービス業)
- 地方創生政策の効果が待ちどおし現状です。(サービス業)
- 梅雨に入り、外の仕事のスケジュールが難しい。大津市リフォーム補助事業の活用で、受注が増加した。予算の増額をお願いします。(建設業)

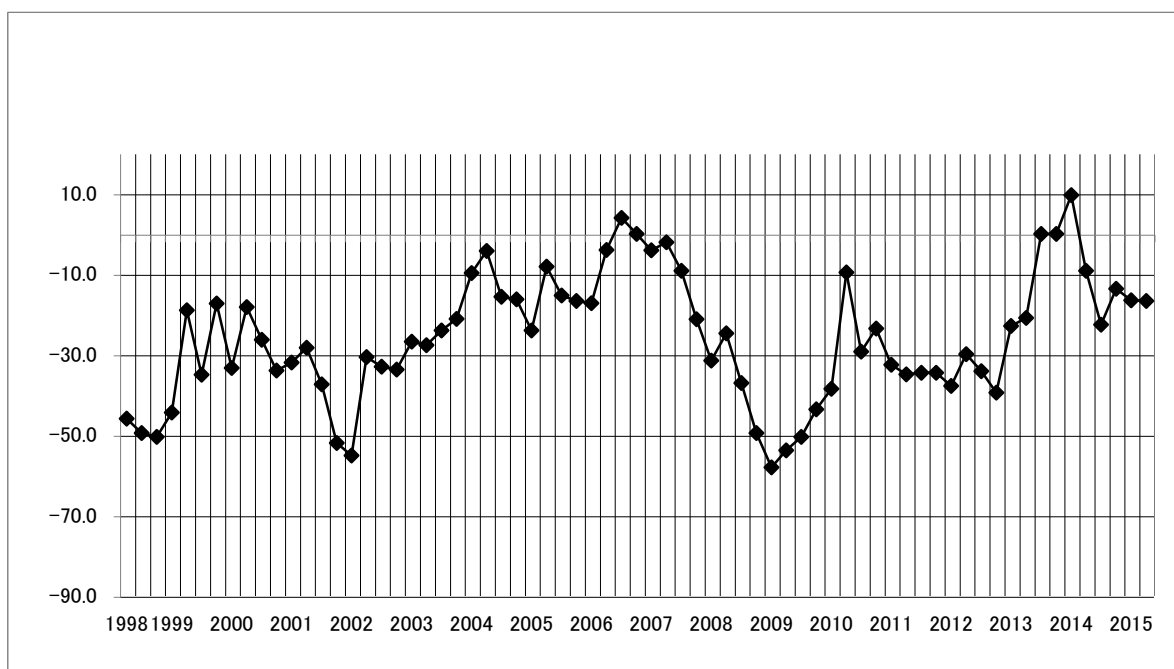
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	▲16.7	▲8.3	▲8.3	▲2.4	▲21.4	▲16.7
建 設 業	▲12.5	▲18.8	0.0	18.8	▲18.8	▲6.3
製 造 業	▲22.2	0.0	▲11.1	▲11.1	▲22.2	▲22.2
卸 売 業	▲28.6	▲14.3	0.0	0.0	▲28.6	▲14.3
小 売 業	▲20.0	▲20.0	▲32.0	▲20.0	▲36.0	▲28.0
サービス業	▲11.1	7.4	7.4	3.7	▲7.4	▲11.1
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	▲6.0	8.3	▲32.1	▲19.0	16.7	15.5
建 設 業	6.3	25.0	▲43.8	▲25.0	31.3	31.3
製 造 業	0.0	11.1	▲22.2	▲11.1	▲22.2	▲22.2
卸 売 業	0.0	14.3	▲28.6	▲14.3	14.3	0.0
小 売 業	▲24.0	▲20.0	▲28.0	▲20.0	32.0	20.0
サービス業	0.0	22.2	▲33.3	▲18.5	7.4	18.5
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し
全体	▲8.3	4.8	▲2.4	1.2	0.0	2.4
建設業	6.3	6.3	▲6.3	0.0	▲6.3	0.0
製造業	▲22.2	▲11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	▲14.3	▲14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲12.0	8.0	▲4.0	▲4.0	0.0	0.0
サービス業	▲7.4	11.1	0.0	7.4	3.7	7.4
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>